

第2回取手市部活動地域移行推進協議会 議事録要旨

日時 令和5年10月27日(金) 午後3時～午後4時45分

場所 取手市役所藤代庁舎 3階301会議室

出席 【協議会委員】

八重樫通委員長、豊島大副委員長、近藤忠委員、廣瀬昌也委員、堀田将寿委員、大澤隼人委員、廣瀬隆委員、井橋貞夫委員、直井徹委員、丸山信彦委員(遅刻)、豊島寿委員

【地域クラブ活動指導者】

美濃部将文(藤代軟式野球クラブ)

【茨城県教育庁】

教育企画室長 永塚広志、学校教育部保健体育課課長補佐 野友宏則、保健体育課指導主事 宮崎健太

【取手市教育委員会】

伊藤哲教育長

スポーツ振興課(事務局)

課長補佐 野口勝彦、係長 岡田繭子、学校教育指導員 黒羽勉、主事 西智志

欠席 酒井彩乃委員、伊藤誠委員

○議事

(1)モデル事業の進行状況について(資料P2)

事務局より7月から行っているモデル事業の報告

・野球部(藤代軟式野球クラブ)

各大会で好成績を残しており、充実した活動が推測できる

夏休みから取手一中からも受け入れている

6年度から中体連の大会にも参加する予定

・剣道部(藤代剣道クラブ)

近隣の団体と合同稽古や練習試合を行い活発に活動している。

〈美濃部指導者より補足〉

数校で指導者が一人で済むので、余裕を持って活動できている

最終的にはスポーツ少年団と地域部活動のつながりができ地域に根付くことを期待している

保護者の協力も厚く、特に不満が出ずに運営できていると感じる

- ・地域クラブ指導員という名目はあるが、実質的には教職員が指導している
- ・個人の道具購入、送迎等保護者からバックアップがある

(2)部活動地域移行に関するアンケート調査について（資料P3～9）

生徒・保護者・教職員・地域クラブ活動に参加している生徒・その保護者へのアンケート結果報告

- ・いずれも部活動の地域移行を進めることについて肯定的な回答が半数を超えている
- ・生徒・保護者のアンケート結果では、「専門的な指導が受けられる」「学校に無い競技ができる」「学校外に人間関係が広がる」ことについて期待している一方で、送迎や参加費などの負担、指導者や他校の生徒との人間関係についての不安がみられた
- ・教職員へのアンケートでは、部活動地域移行について肯定的な意見が多く、「生徒が専門的な指導を受けられる」ことや「働き方改革」について期待している一方で保護者の負担増や生徒の人間関係、通常部活動との線引きやトラブル対応についての不安がみられた
- ・現状のモデル事業参加生徒へのアンケートは、「専門的な指導が受けられる」「人間関係が広がる」「人数が増え活気が出る」など、満足している様子がみられる

(3)令和5年度の今後の予定について（資料P10）

12月中に6年度モデル部活動内容を決定

1月～2月 新入生説明会で地域クラブ活動についての説明、案内

2月20日 第3回推進協議会

3月にモデル事業参加生徒及び保護者に対しアンケートもしくは聞き取りを行う

- ・第3回の協議内容については本年度の統括、次年度に向けての報告及びそれを受けての意見収集を予定している

(4)令和6年度以降の事業計画について（資料P10）

- ・6年度

各中学で2つ以上の部活で休日の活動を地域クラブとする

6競技に増やす予定

野球（藤中・藤南中・一中、永中・戸中）、剣道（藤南中・藤中、二中）、

柔道（一中・藤中）、バレーボール（藤南中）、空手（二中）、

女子バスケ（永中・戸中）

推進協議会を年3回開催予定

- ・ 7年度
半数以上の部活で休日の活動を地域クラブとする
- ・ 8年度
全ての部活動で休日の活動を地域クラブとする
- ・ クラブの増加に伴い問題も多くなることが予想されるので、都度検討していく

(5)その他

- ・ 現状の課題について
移動時間、距離の問題、複数校で合同でやっているため、土日の学校行事の調整が難しかったり、連絡手段のラグがあったりする
- ・ 指導者数は現状不足は無いが、異動のある教師である以上将来を考え地域の中から人材を探していく必要はある
- ・ 部活人数を補うため拠点校型となっているパターンが多いが、こだわらずに競技ごとに適した形で対応していくべき
- ・ 取手市の総合型地域スポーツクラブの西部ふれあいクラブで、戸頭中バスケ部の生徒を受け入れ活動している。また、4つの総合型地域スポーツクラブで運営母体を作るという提案をクラブ側から受けており、今後検討する
- ・ 文化部も含めて地域移行するなかで、吹奏楽部は道具の移動やメンテナンス費用、活動場所のセキュリティの問題など特に課題が多い
- ・ 地域クラブと学校との関わり方が今後どうなっていくのか、というのが現状不透明なので、各主体のスタンス、全体としての方向性、目標がはっきり共有できればと思う。
- ・ 中体連では、取手市・北相馬郡として、利根町と一緒に活動しているので今後利根町の中学校とも連携・協力していきたい。

〈茨城県教育庁より〉

- ・ 地域によって適した形は違うが、比較的進んでいる自治体では運営母体を作っている。
- ・ 人材確保についても大きな課題だと思う。県では金融機関をはじめとした企業に協力を仰ぎ人材バンクを構成しているので、活用してほしい。
- ・ 地域「移行」というよりも地域「展開」といった表現が正しい。既存の部活の枠組みにとらわれず、地域展開だからこそ様々なスポーツができたりもする。子どもたちが好きな活動をできるように展開してほしい。
- ・ 休日に部活をやる必要があるのか、という所を出発点としてほしい

○総括

正解がわからないのが現状。各自治体ではそれぞれ運営母体など確立しているところもあるが、拠点校型にするのか、自治体主体なのか、運営母体を作るのか、そもそもの地域移行の必要性の有無も含めて、取手市に適した形を引き続きモデル事業を通して模索していく。

その中で、子どもたちの想いを大切にしながら、各主体に対して取手市の目指す形、意図が正しく伝わることが重要。

○次回推進協議会

2月20日（火）15時～ 取手市役所藤代庁舎3階301会議室